

# 花壇並に花壇用草花年中行事

—(七月)—

日比谷公園花壇掛 富本光郎

## 夏の模様花壇の植付

鐵砲百合。マガレット。美女櫻。フロックス。ピスカリヤ。ロベリヤ。等初夏の模様花壇に我々の目を喜ばせてくれたものも七月上旬頃より次第に花を終り形も悪くなるので次の如き春蒔草花の中、七、八月頃咲くものを以て補植を行ふ。然し夏咲くものは模様花壇に向く様な矮性の種類少く、又色形等にも優れたものが少いので春、初夏等に比し可成見劣りのする事は止むを得ないことである。

尚暑氣のため乾燥が極めて激しいから植付も朝夕の涼しい時に行ひ植付後當分の間は一日數回灌水して植傷みを防ぐ様心掛けなければならぬ。

### 夏の模様花壇用草花

丈七寸……一尺前後のもの

天人菊	一年草	春播種
鳳仙花	"	"
ユーホルビヤ(草猫々、觀葉)	"	"
アゼラタム	"	"
マリーゴールド(萬壽菊)	"	"
コキヤ(草蓍草、觀草)	"	"
コリウス(觀葉)	宿根草(各温室に保護)	春挿芽
辨慶草	"	春株分又ハ挿芽
丈五寸前後のもの		
矮性百日草	一年草	春播種
マリーゴールド(孔雀草)	"	"
松葉牡丹	"	"
矮性翠菊	"	"

## 花菖蒲の植付

牡丹、芍薬等と共に古來我國名花の一としての花菖蒲の數株は是非何れの家庭にも欲しいものゝ一つである。

又他のものに比し至つて手数を要せず年中殆んど放置の状態でも立派に開花するので、近年幾分その栽培の衰退しかけた此花も二三年來再び一般の認める處となり、昔年の如く盛ならんとする氣運に満たされてゐる。

此もの、植付適期は六月下旬より七月中旬迄花の終つた直後がよいので、昔より堀切方面では水田で作つたために水栽植物の如く一般に思はれてゐるが、水の中よりはむしろ陸の方が却つてよく出来るもので、只その開花前一ヶ月間位は、常にしつとりと濕つてゐる様な場所がよいのである。従つてかゝる場所の得られない場合は一ヶ月間位十分に灌水してやればよい譯で、普通の草花同様の場所で結構なのであるが、只このものゝ葉なり花なり咲く時期なり又その傳統的觀念より水邊に近く植ゑた方が極めてうつりよく思はれるものである。

四、五芽を一株として七、八寸おきに植付け、肥料は植付の時は一切施さず秋二三回、翌春になつて四、五回何れ

トレンシア(夏堇)

千 日 紅

矮性セダム(觀葉)

天門冬(ハ)

宿根草 春株分又ハ挿芽

球根 秋又ハ春分球

## 境栽花壇(混合花壇)の手入

模様花壇は適した草花の少い關係上その美しさは他の時期には及ばないが、境栽花壇は六月中旬頃より七月下旬頃までにかけては最もその絢爛を誇る時で、花の色も春などより中間色の柔かいものが少くなつて、紫滴るばかりの花菖蒲、雪かと白き夕顔、濃紅燃ゆるが如きカンナ、烈々太陽にも比すべき向日葵の黄金色、其他ダリア、グラデオラス、百合、朝顔、百日草、草菖竹桃等紅葉紫白入亂れて總ての花の色、形が強き日の光に反抗する男性的な姿を示して四季の中最も力強い趣を現出してくれる。

之等のものにより長くその美しさと威力を發揮せしめるためには不斷の手入を怠つてはならないので、冗枝の剪定花殻の除去、施肥、除草、灌水、其他病蟲害の驅除、豫防等總ての點に常に手数を惜んではならない。

も油粕の腐熟液の極く薄いものを施せば十分である。

尙東京などにては十分なる餘地のないために、近年鉢植として盛に培養され、日比谷公園にて陳列會も催される様になつてゐるが、鉢植としても十分なる手入れと肥料を施せば朝顔、菊などと同様のもの以上に大花を開き花萼蒲獨特の美しさを眺めることが出来る。

鉢植法に就いても(之は熊本にて發達したものであるが)書かねばならないのであるが、これはあまり専門的でもあり、又長くなるので紙面を改めて詳しく記すこととする。

## ダリアの剪定

ダリアの花は夏期に開花したものでより秋期のものの方がその形といひ色彩といひ、數段優れて来るもので八月に入るとあまりに強い光線のために十分なる開花を見ないので七月下旬一度地上一尺——一尺五寸位に剪定して更新させることが規則的に行はれてゐる。

此剪定に當つて注意すべきは一度に切り縮めては過剰なる精力のために却つて枯死せしめる様なことがあるから、少しづつ二三回に剪縮して最後に前記の如く一尺——一尺五寸位になる様に行ひ、尙切口は雨水などの浸入して腐敗せしめることなどのない様、少し體裁は悪いが油紙の如き

ものにてふさいでおく必要がある。

この剪定と同時に株の周圍を深さ三寸位に掘つて油粕の腐熟せるもの二合位と過燐酸石灰五勺位を散布し、上より人糞尿をかけて土を覆ひおけば再び勢よき液芽を發生し九月中旬頃より暑氣の減すると共に次第に再び開花を始め、降霜迄絶えず夏のものよりは色彩の鮮麗な重ねの深い花を咲き續けてくるものである。

## 其他の作業

一、連日の酷暑に木を衰弱せしめない様、牡丹芍薬等は根元に堆肥、茭藁の如きものを敷いて幾分にも乾燥を防いでやる様にする。

一、花壇植用として培養中の小鉢物に十分なる澆水を行ふは勿論既に花壇に植出したものにも晴天の續く時には適宜朝夕の澆水を怠つてはならない。

一、夕立のあつた後など土の濕つた時に必ず十分なる除草を行ひ、生えたばかりの小さい草でも其儘にしておくと高温に惠まれて直ぐ繁茂して仕末がつかなくなるから骨惜みせずにつかり抜き取つてしまふ事が大切である。

一、梅雨期に發生繁殖した蚜蟲類、うどんこ病等の驅除其他の病蟲に對して豫防藥劑散布等常に注意が肝要である